

学 位 論 文 要 旨

氏 名 西川 厚嗣

論 文 名 能動喫煙及び受動喫煙と潰瘍性大腸炎リスクとの関連：日本における症例対照研究

学位論文要旨

欧米の報告から潰瘍性大腸炎においては、能動喫煙が予防的であることが知られている。一方、アジアでは近年、潰瘍性大腸炎の増加が認められるが、アジア人を対象とした疫学研究の報告は少ない。今回、日本において、384人の潰瘍性大腸炎患者と665人のコントロール群による、症例対照研究を行った。質問票にて情報を得た。喫煙歴のない潰瘍性大腸炎患者と比較し、喫煙歴のある潰瘍性大腸炎患者ではリスクは増加した (adjusted odds ratio [OR] = 1.70, 95% confidence interval [CI]: 1.23-2.37)。能動喫煙と潰瘍性大腸炎のリスクに関連は認められなかったものの、過去の喫煙は潰瘍性大腸炎のリスクを増加させた (adjusted OR = 2.40, 95% CI: 1.67-3.45)。また、喫煙本数と潰瘍性大腸炎リスクとの間に量-反応関係が認められた (P for trend = 0.006)。家庭における受動喫煙は潰瘍性大腸炎の発症リスクを上昇させた (adjusted OR = 1.90, 95% CI: 1.30-2.79)。受動喫煙の本数と潰瘍性大腸炎リスクと間には量-反応関係が認められた (P for trend = 0.0003)。欧米での報告のような能動喫煙による予防的影響は本研究では確認できなかったものの、喫煙歴および受動喫煙は、潰瘍性大腸炎の発症リスクとなることが研究から示唆された。

この研究は愛媛大学大学院医学系研究科での倫理委員会によって承認されており、同様に協力施設における倫理委員会においても承認されている。

キーワード (3~5)	case-control studies; passive smoking; smoking; ulcerative colitis; risk
-------------	--